

私の選んだ3冊

情報サービス課 石美 真也

『現代アメリカ経済』 河村哲二 著 (有斐閣) xiii, 384p

第二次世界大戦後、アメリカは「ボックス・アメリカーナ」として世界をリードしてきました。「ボックス・アメリカーナ」とは、アメリカを軸として確立された世界的な政治経済の秩序を指します。この体制は1970年代半ばまでで、衰退し大きな転機を迎えましたが、現在でもアメリカが世界経済に与える影響は極めて大きいものがあります。

日本でも、アメリカ経済の影響は大きく受けています。そのため、日本が平成大不況といわれる中でも、アメリカの動向は常に注目されてきました。アメリカの経済システムとは、どのようなものなのでしょうか。

本書では、「ボックス・アメリカーナの経済システムの盛衰」という視角を基本に据えて、第二次世界大戦後のアメリカ経済の変遷が解説されています。アメリカ国内の経済的發展と世界経済を主導してきた対外的役割にも注目しながら論じられており、アメリカ経済の歴史と現在が大変よくわかる書です。

332.53-Kaw

『ヨーロッパ型資本主義』 福島清彦 著 (講談社) 246p

EUが誕生し、世界経済に与える影響は注目されています。それまでは、アメリカが中心となり世界経済を動かしてきましたが、EUはその構造を変えるかもしれない大変大きな市場があります。EUの経済システムはどのようなものなのでしょうか。

EUにはヨーロッパのいくつもの国々が加盟していますが、それぞれの国で同じ資本主義であっても、経済システムは異なります。そのため、EU諸国では各国内でも各国間でも、資本主義のあり方についての議論が盛んに行われています。アメリカとは全く環境は異なっており、アメリカ型の資本主義を目指しているわけではありません。

本書では、ヨーロッパ経済の現状やアメリカ型とは異なるヨーロッパ型の資本主義の優位性などが論じられています。ヨーロッパの発想を日本に役立てることも考えられており、一読をお勧めします。

332.3-Fuk

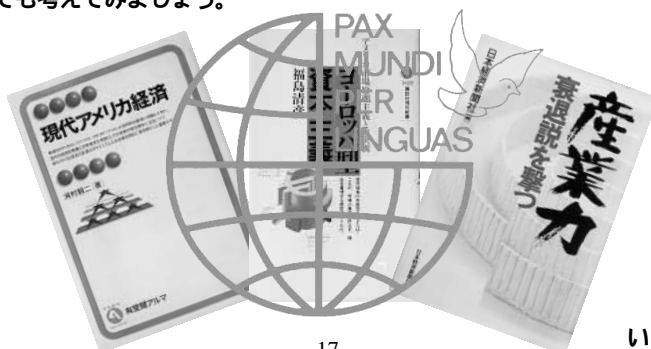
『産業力 - 衰退説を撃つ - 』 日本経済新聞社 編 (日本経済新聞社) x, 247p

日本はバブルが崩壊して、長い間不況に喘いでいます。中国は「世界の工場」といわれるようになり、世界経済の中でも大変注目される存在となりましたが、日本の世界経済における地位は、依然として停滞しています。日本はこのまま不況から抜け出せないのでしょうか。

しかし、このような現状の中でも、技術や社会の変化の大きな潮流を読み、積極的に新分野にチャレンジしていく、力強い企業も存在します。このような企業が今後増えていくことが、日本の復興の鍵となるかもしれません。

本書は、2002年4月から始まった、「日本経済新聞」の長期連載企画「産業力」の記事に加筆・修正を加えたもので、2002年9月までのものが紹介されています。不況の中で、強さを保ち続けている企業や新しい価値を創造していく企業など、様々な企業の話が読むことができます。不景気のことばかりでなく、強い日本企業についても考えてみましょう。

335.21-Sang



いしみ しんや(司書)